

差別や偏見で傷つけない・傷つかないために



©大田区

自分とは違う立場や考え方の人と出会ったときに覚える違和感が、差別や偏見につながってしまう場合があります。

さまざまな人権侵犯事件

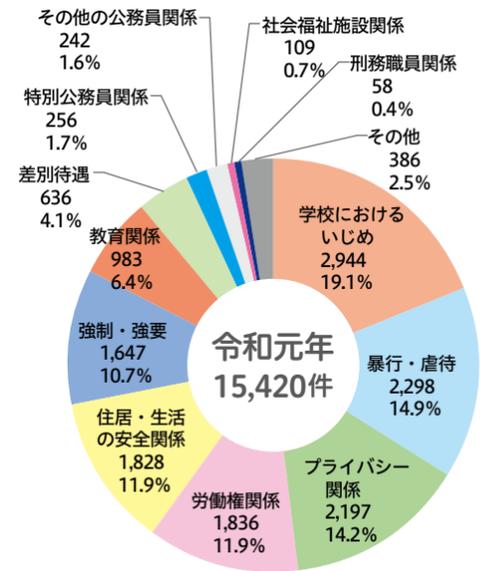
■人権とは誰もが生まれながらに持っている権利です。人種、性別、国籍、障がいの有無、年齢などで差別されず、全ての人に平等なものであり、その人がその人らしく幸せに生きていくために尊重されなければならないものです。

■しかしながら、法務省・文部科学省が発行した「令和2年版 人権教育・啓発白書」によると、令和元年に新規に救済手続きをした人権侵犯事件は15,420件もあります。内訳は、「学校におけるいじめ(2,944件)」が最も多く、

続いて子どもに対する虐待など「暴行・虐待(2,298件)」インターネット上での誹謗中傷などの「プライバシー関係(2,197件)」と続いています。

■そのほかにも、職場におけるセクシュアルハラスメント、部落差別、障がい者や外国人への差別など、さまざまな人権侵犯事件が報告されています。特に今年は新型コロナウイルス感染症に起因する差別や偏見が社会的な問題となりました。

【令和元年 人権侵犯事件の救済開始件数】



出典「令和2年版 人権教育・啓発白書」

大田区でも新型コロナウイルス感染症に起因する差別が発生しました

新型コロナウイルスの感染者を特定する情報を SNS で流す、営業を再開したお店に誹謗中傷の電話をかけるなどの差別被害が大田区内でも報告されています。国は「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の中で、感染者・濃厚接触者や、診療に携わった方々に対する誤解や偏見に基づく差別を行わないよう示しています。また、法務大臣、文部科学大臣は、不当な差別・偏見の防止に向けたメッセージを発しています。区も「コロナ差別を許さない～相手を思いやる気持ちを～」と題し、ホームページで啓発したほか、「STOP！コロナ差別」のポスターを作成し、特別出張所や図書館などで掲示しています。差別・偏見は許さないという意識を強く持ちましょう。大田区の啓発活動についてはホームページからご覧になれます。



(ホームページはこちら)

どうして差別や偏見が起きるの？

差別・偏見の背景にあるのは、①感染や生活変化への不安②感染予防に対する考え方の違い③情報不足です。先が見えず、不安な気持ちが強くなると、自分の行動が正しいと思いたい気持ちが強くなり、情報の正確さを判断するのが難しくなるため、差別が起きやすくなります。不安なときこそ、不確かな情報に振り回されないか、自分や身近な人の安全・安心を守るための行動が誰かを傷つけてはいないか、冷静になって確かめてみましょう。



©大田区

相手も自分も尊重し、問題に気付く

私たちは日々を過ごす環境の中で“違いをはかるものさし”を手に入れ、自分と人を比べていることがあります。また、これまではあまり問題視されてこなかった行為も人権侵害につながる場合があります。人権問題に関心を向けること、気付くことから始めてみませんか。



©NHK

ふつうってどういうこと？

NHK for School
「Q～こどものための哲学とは？」より

ふつうでいたいと思うこともあれば、ふつうじゃいけないと思うこともある。どうして私たちは「ふつう」というものさしが気になるのでしょうか？ Qくんと一緒に、いろいろな角度から「ふつう」を考える15分間。



(詳しくはこちら)



ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー

ブレイディみかこ・著 新潮社

自分や友だちの身に今起きていることを通して、人種や性別、貧富の差に向き合っていく「ぼく」。違いを理解するのは難しい。だからこそ相手の立場を想像する努力をしてみよう、と背中を押してくれる作品です。



こども六法

山崎駿一郎・著
伊藤ハムスター・絵 弘文堂

これまでは「しつけ」「いじり」だからと問題視されにくかった行為も、「虐待」「いじめ」になりうると認識されるようになり、苦しむ人を守るための法律がつけられました。子どもも大人も助けてくれる入門書です。